

地方	鮑		蝦		其他		總數	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
北海道	三,〇五五	三〇,〇八七	三,六八六	一六,〇〇〇	一七,七三六	三三,七三六	三六,四一五	三三,〇四七
青森	五,八八八	五八,〇〇〇	一〇〇	一,〇〇〇	一,二〇〇	三,〇〇〇	六,〇〇〇	一,〇〇〇
岩手	四,六六五	六四,〇〇〇	一〇〇	一,〇〇〇	一,二〇〇	三,〇〇〇	六,〇〇〇	一,〇〇〇
宮城	三,四九三	三六,〇〇〇	一〇〇	一,〇〇〇	一,二〇〇	三,〇〇〇	六,〇〇〇	一,〇〇〇
秋田	—	—	—	—	—	—	—	—
山形	—	—	—	—	—	—	—	—
福島	—	—	—	—	—	—	—	—
茨城	—	—	—	—	—	—	—	—
栃木	—	—	—	—	—	—	—	—
群馬	—	—	—	—	—	—	—	—
埼玉	—	—	—	—	—	—	—	—
千葉	—	—	—	—	—	—	—	—
東京	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川	—	—	—	—	—	—	—	—
新潟	—	—	—	—	—	—	—	—
富山	—	—	—	—	—	—	—	—
石川	—	—	—	—	—	—	—	—
福井	—	—	—	—	—	—	—	—
山梨	—	—	—	—	—	—	—	—
長野	—	—	—	—	—	—	—	—
岐阜	—	—	—	—	—	—	—	—
静岡県	—	—	—	—	—	—	—	—

地方	鮑		蝦		其他		總數	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
愛知	二,九三三	五〇,〇〇〇	七,一〇〇	六八,〇〇〇	三,三三三	六八,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
三重	—	—	—	—	—	—	—	—
滋賀	—	—	—	—	—	—	—	—
京都	—	—	—	—	—	—	—	—
大阪	—	—	—	—	—	—	—	—
兵庫	—	—	—	—	—	—	—	—
奈良	—	—	—	—	—	—	—	—
和歌山	—	—	—	—	—	—	—	—
鳥取	—	—	—	—	—	—	—	—
島根	—	—	—	—	—	—	—	—
岡山	—	—	—	—	—	—	—	—
広島	—	—	—	—	—	—	—	—
山口	—	—	—	—	—	—	—	—
徳島	—	—	—	—	—	—	—	—
香川	—	—	—	—	—	—	—	—
愛媛	—	—	—	—	—	—	—	—
高知	—	—	—	—	—	—	—	—
福岡	—	—	—	—	—	—	—	—
佐賀	—	—	—	—	—	—	—	—
長門	—	—	—	—	—	—	—	—
熊本	—	—	—	—	—	—	—	—
大分	—	—	—	—	—	—	—	—
宮崎	—	—	—	—	—	—	—	—
鹿児島	—	—	—	—	—	—	—	—
沖縄	—	—	—	—	—	—	—	—
計	一五,八八五	一,七三,七九	一,七,〇〇〇	一,七,〇〇〇	一,七,〇〇〇	一,七,〇〇〇	一,七,〇〇〇	一,七,〇〇〇
大正十四年	一三,三三四	一,四〇,八二七	一,九,四四五	一,九,四四五	一,九,四四五	一,九,四四五	一,九,四四五	一,九,四四五

大熊長佐福高愛香德山廣岡島鳥和奈兵大京滋三愛靜岐長山福
歌

分本崎賀岡知媛川島口島山根取山良庫阪都賀重知岡阜野梨井

第十三編 水産製造貿易及冷蔵 水産製造統計

井梨野阜	100	1,000	100	1,000
山崎	100	1,000	100	1,000
山根	100	1,000	100	1,000
島口	100	1,000	100	1,000
川島	100	1,000	100	1,000
知媛	100	1,000	100	1,000
岡崎	100	1,000	100	1,000
賀本	100	1,000	100	1,000
本分	100	1,000	100	1,000
大熊	100	1,000	100	1,000
長佐	100	1,000	100	1,000
福高	100	1,000	100	1,000
愛香	100	1,000	100	1,000
德山	100	1,000	100	1,000
廣岡	100	1,000	100	1,000
鳥和	100	1,000	100	1,000
奈兵	100	1,000	100	1,000
大京	100	1,000	100	1,000
滋三	100	1,000	100	1,000
愛靜	100	1,000	100	1,000
岐長	100	1,000	100	1,000
山福	100	1,000	100	1,000

三六五

石富新神東千埼群栃茨福山秋宮岩青北
奈 海

地方

同 同 同
十 十 十
一 二 三
年 年 年

北海道	1,773	9,234	9,694	1,400,300	1,000,000	1,000,000	1,000,000
青森	1,773	9,234	9,694	1,400,300	1,000,000	1,000,000	1,000,000
岩手	1,773	9,234	9,694	1,400,300	1,000,000	1,000,000	1,000,000
宮城	1,773	9,234	9,694	1,400,300	1,000,000	1,000,000	1,000,000
秋田	1,773	9,234	9,694	1,400,300	1,000,000	1,000,000	1,000,000
山形	1,773	9,234	9,694	1,400,300	1,000,000	1,000,000	1,000,000
福島	1,773	9,234	9,694	1,400,300	1,000,000	1,000,000	1,000,000
茨城	1,773	9,234	9,694	1,400,300	1,000,000	1,000,000	1,000,000
栃木	1,773	9,234	9,694	1,400,300	1,000,000	1,000,000	1,000,000
群馬	1,773	9,234	9,694	1,400,300	1,000,000	1,000,000	1,000,000
千叶	1,773	9,234	9,694	1,400,300	1,000,000	1,000,000	1,000,000
東京	1,773	9,234	9,694	1,400,300	1,000,000	1,000,000	1,000,000
神奈川	1,773	9,234	9,694	1,400,300	1,000,000	1,000,000	1,000,000
新潟	1,773	9,234	9,694	1,400,300	1,000,000	1,000,000	1,000,000
富山	1,773	9,234	9,694	1,400,300	1,000,000	1,000,000	1,000,000
石川	1,773	9,234	9,694	1,400,300	1,000,000	1,000,000	1,000,000
合計	1,773	9,234	9,694	1,400,300	1,000,000	1,000,000	1,000,000

第十三編 水産製造貿易及冷蔵 水産製造統計

三六四

第十三編 水産製造貿易及冷蔵 水産製造統計

地方	鱈		鱈		藏 (其の二)		秋刀魚	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
福賀	三〇六、二一〇	六、〇八〇	三、〇三〇	一、六八八	三、四七四	五、二一六	四、五〇〇	四、〇五〇
長崎	一〇九、二三五	三、九八〇	二、一〇八	一、〇五九	八九〇	一、六一		
熊本	七三、三五五	二、五五五	一、〇八一	五、二三四				
大分	一、一〇〇	一、三〇〇	五、三三〇	五、三三三				
宮崎	六、九〇〇	三、七一〇	八、四四〇	五、三三三	五〇〇	五〇〇		
鹿兒	三、七三三	一、四〇三	一〇、六六〇	九、三三三	五、六五五	八、六一		
沖繩	三、八三三、八四一	一、二五九、五四四	一、四三三、七五五	一、二五四、七三三	五、六五五	八、六一		
計	四、三三三、三三三	二、〇四四、〇六六	一、五三三、三三三	一、三五六、三三三	二、三三三、三三三	三、三三三、三三三	一、四三三、三三三	三、〇三三、三三三
大正十四年	四、九四、三三三	二、四六、五五五	二、〇四七、三三三	一、六五五、三三三	一、七、三三三	四、五五、三三三	八三三、八三三	一、五五、三三三
同十三年	五、〇三六、八七七	二、二七六、七五五	一、八三三、九〇〇	一、四七三、一〇〇	四、四、四〇〇	八、三三、〇七七	三、一九四、九三三	三、七四、八三三
同十二年	二、八三六、〇六六	一、五五五、七三三	一、五三三、一〇一	一、三三六、〇四一	四、七、三三三	一、〇五五、四四四	一、三三六、〇六六	一、九二〇、四三三
同十一年								
北海	一、六〇〇、五九九	一、二〇〇、八三三	五、八、〇八八	三、〇、八七七	一、六〇、四三三	七、七、三三三	三三〇	三三〇
青森	三、七三三	四、七三三	五、三三三	五、三三三				
岩手								
宮城								
秋田								
山形								
福島								
茨城								

地方	鱈		鱈		藏 (其の二)		秋刀魚	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
栃木								
群馬								
千代田								
東京								
神奈川								
新潟								
富山								
石川								
福井								
山梨								
長野								
岐阜								
静岡								
愛知								
三重								
滋賀								
京都								
大阪								
兵庫								
奈良								
和歌山								
鳥取								
島根								
岡山								
広島								
山口								

第十三編 水産製造貿易及冷蔵 水産製造統計

和奈兵大京滋三愛靜岐長山福石富新神東千埼群栃茨福山秋城
 歌 奈 山良庫阪都賀重知岡阜野梨井川山湯川京葉玉馬木城島形田宮

第十三編 水産製造貿易及冷蔵 水産製造統計

歌	山	良	庫	阪	都	賀	重	知	岡	阜	野	梨	井	川	山	湯	川	京	葉	玉	馬	木	城	島	形	田	宮	
1,950																											157,800	
6,500																											34,110	
4,466	1,776	500	6,277	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	3,800
4,276	1,576	500	3,855	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
57,851	33,144	6,880	8,644	5,000	9,997	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
57,851	33,144	6,880	8,644	5,000	9,997	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
57,851	33,144	6,880	8,644	5,000	9,997	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000

三七一

岩青北 地方 同同同 大正 沖鹿宮大熊長佐福高愛香德
 手森海 方 十十十 計 兒 本崎賀岡知媛川島
 年 年 年 十四 細島崎分本崎賀岡知媛川島
 十 十 十 年 島 崎 分 本 崎 賀 岡 知 媛 川 島
 一 一 一 年 島 崎 分 本 崎 賀 岡 知 媛 川 島
 十 十 十 年 島 崎 分 本 崎 賀 岡 知 媛 川 島
 一 一 一 年 島 崎 分 本 崎 賀 岡 知 媛 川 島

第十三編 水産製造貿易及冷蔵 水産製造統計

岩	青	北	地方	同	同	同	大正	沖	鹿	宮	大	熊	長	佐	福	高	愛	香	德
37,640	12,740	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950
37,640	12,740	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950
4,466	1,776	500	6,277	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
4,276	1,576	500	3,855	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
57,851	33,144	6,880	8,644	5,000	9,997	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
57,851	33,144	6,880	8,644	5,000	9,997	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
57,851	33,144	6,880	8,644	5,000	9,997	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000

三七〇

地方	品名	数量	単価	金額
鳥取	魚	1,250	100	125,000
岡山	魚	1,250	100	125,000
廣島	魚	1,250	100	125,000
山口	魚	1,250	100	125,000
徳島	魚	1,250	100	125,000
香川	魚	1,250	100	125,000
愛媛	魚	1,250	100	125,000
高知	魚	1,250	100	125,000
福岡	魚	1,250	100	125,000
佐賀	魚	1,250	100	125,000
熊本	魚	1,250	100	125,000
大分	魚	1,250	100	125,000
宮崎	魚	1,250	100	125,000
鹿兒	魚	1,250	100	125,000
沖繩	魚	1,250	100	125,000
計				
大正十四年		63,666		6,366,666
十三年		1,250		125,000
十二年		1,250		125,000
十一年		1,250		125,000

地方

北海道 青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 静岡 愛知

地方	品名	数量	単価	金額
北海道	魚	1,000	1,000	1,000,000
青森	魚	7,525	333	2,506,825
岩手	魚	1,000	1,000	1,000,000
宮城	魚	1,000	1,000	1,000,000
秋田	魚	1,000	1,000	1,000,000
山形	魚	1,000	1,000	1,000,000
福島	魚	1,000	1,000	1,000,000
茨城	魚	1,000	1,000	1,000,000
栃木	魚	1,000	1,000	1,000,000
埼玉	魚	1,000	1,000	1,000,000
千葉	魚	1,000	1,000	1,000,000
東京	魚	1,000	1,000	1,000,000
神奈川	魚	1,000	1,000	1,000,000
新潟	魚	1,000	1,000	1,000,000
富山	魚	1,000	1,000	1,000,000
石川	魚	1,000	1,000	1,000,000
福井	魚	1,000	1,000	1,000,000
山梨	魚	1,000	1,000	1,000,000
長野	魚	1,000	1,000	1,000,000
岐阜	魚	1,000	1,000	1,000,000
愛知	魚	1,000	1,000	1,000,000
静岡	魚	1,000	1,000	1,000,000
愛知	魚	1,000	1,000	1,000,000

雜類

類(其の一)

生 節 蒲 竹 輪 佃 煮 味 淋 乾

品名	数量	単価	金額
生	1,000	1,000	1,000,000
節	1,000	1,000	1,000,000
蒲	1,000	1,000	1,000,000
竹	1,000	1,000	1,000,000
輪	1,000	1,000	1,000,000
佃	1,000	1,000	1,000,000
煮	1,000	1,000	1,000,000
味	1,000	1,000	1,000,000
淋	1,000	1,000	1,000,000
乾	1,000	1,000	1,000,000

地方	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
北海道	六七、八七	八、七三	六、六七	二、九五	二五、七〇	五、八七	五、七〇	二、六六
青森	六、二七	三、四〇	一、八三	二、〇五	八	三		
岩手	五	五〇〇						
宮城	一、三〇	九、二〇						
秋田	一〇〇	二五						
山形	一、一〇	九、〇〇						
福島	一、一〇	九、〇〇						
茨城								
栃木								
群馬								
千葉								
東京	七、六〇	一三、八〇	五	三〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇		
神奈川								
新潟								
富山								
石川	三	一、三〇						
福井								
山梨								
長野								
岐阜								
静岡	八、〇五	二九、四三						
愛知	五、三〇	四九、四七						

地方	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
滋賀	二四、五〇	五、〇〇						
京都	一〇〇	八〇						
大阪	二、五〇	一、六元						
兵衛	六	一、七〇						
奈良								
和歌山								
鳥取								
島根								
岡山								
広島	一〇、三三	五、六七						
山口								
徳島	四、三三	三、六〇						
香川	八五	二、五二						
愛媛	八〇	四、八〇						
高知								
福岡	三、二五	九、一五						
佐賀	二、二五	五、三六						
長門	一〇、八〇	六、三三						
熊本	一、二〇	九、〇三						
大分	五、四七	三、九〇						
宮崎	四、四六	四、四六						
鹿児島								
沖縄								
計	三六、六四	一、〇七、七三	一、〇〇、九六	二、三〇、八四	一〇六、七六	三、九五、五〇	三、七〇、三〇	二、七四、四九
大正十四年	一七、三三	八、四三	三、七二	四、七九	一五、四六	三、三六	三、三三	二、七四、四九
同十三年	一、二二	一、五一	八、二〇	一、六二	一、四三	三、三三	一、二七	二、七四、四九
同十二年	三、四〇	一、四三	三、二六	七、〇九	三、三三	一、九八	三、三三	二、七四、四九

第十三編 水産製造貿易及冷蔵 水産製造統計

計
大正十四年
同十三年
同十二年
同十一年

地方	鮑		螺		蒲		鈔		總計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
北海	一九、七四	四、三三	三	六	一〇〇	一、〇〇	一、〇〇一、〇〇九	三、四八、八〇〇	一、〇〇一、〇〇九	三、四八、八〇〇
青森	一八、四〇〇	一〇、三三					一、四八、九八	三、四八、八〇〇	一、四八、九八	三、四八、八〇〇
岩手	三、八五〇	一〇、三三					四、四八	三、四八、八〇〇	三、八五〇	一〇、三三
宮城	五、一四	三、三三					三、三三	三、四八、八〇〇	五、一四	三、三三
秋田							三、三三	三、四八、八〇〇		
山形							三、三三	三、四八、八〇〇		
福島							三、三三	三、四八、八〇〇		
茨城							三、三三	三、四八、八〇〇		
栃木							三、三三	三、四八、八〇〇		
群馬							三、三三	三、四八、八〇〇		
埼玉							三、三三	三、四八、八〇〇		
千葉							三、三三	三、四八、八〇〇		
東京							三、三三	三、四八、八〇〇		
大阪							三、三三	三、四八、八〇〇		
京都							三、三三	三、四八、八〇〇		
奈良							三、三三	三、四八、八〇〇		
和歌山							三、三三	三、四八、八〇〇		
鳥取							三、三三	三、四八、八〇〇		
島根							三、三三	三、四八、八〇〇		
岡山							三、三三	三、四八、八〇〇		
廣島							三、三三	三、四八、八〇〇		
山口							三、三三	三、四八、八〇〇		
徳島							三、三三	三、四八、八〇〇		
香川							三、三三	三、四八、八〇〇		
愛媛							三、三三	三、四八、八〇〇		
高知							三、三三	三、四八、八〇〇		
福岡							三、三三	三、四八、八〇〇		
佐賀							三、三三	三、四八、八〇〇		
長門							三、三三	三、四八、八〇〇		
熊野							三、三三	三、四八、八〇〇		

地方	鮑		螺		蒲		鈔		總計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
石川	四、〇四	三、一九					三、一九	三、四八、八〇〇	四、〇四	三、一九
山梨							三、一九	三、四八、八〇〇		
長野							三、一九	三、四八、八〇〇		
福井							三、一九	三、四八、八〇〇		
岐阜							三、一九	三、四八、八〇〇		
静岡							三、一九	三、四八、八〇〇		
愛知							三、一九	三、四八、八〇〇		
三重							三、一九	三、四八、八〇〇		
滋賀							三、一九	三、四八、八〇〇		
京都							三、一九	三、四八、八〇〇		
大阪							三、一九	三、四八、八〇〇		
奈良							三、一九	三、四八、八〇〇		
和歌山							三、一九	三、四八、八〇〇		
鳥取							三、一九	三、四八、八〇〇		
島根							三、一九	三、四八、八〇〇		
岡山							三、一九	三、四八、八〇〇		
廣島							三、一九	三、四八、八〇〇		
山口							三、一九	三、四八、八〇〇		
徳島							三、一九	三、四八、八〇〇		
香川							三、一九	三、四八、八〇〇		
愛媛							三、一九	三、四八、八〇〇		
高知							三、一九	三、四八、八〇〇		
福岡							三、一九	三、四八、八〇〇		
佐賀							三、一九	三、四八、八〇〇		
長門							三、一九	三、四八、八〇〇		
熊野							三、一九	三、四八、八〇〇		

第十三編 水産製造貿易及冷蔵 水産製造統計

冷蔵運搬船獎勵金交付許可府縣別表

府縣	大正十二年	同十三年	同十四年	同十五年	同十六年	同十七年	同十八年	同十九年	同二十年	同二十一年	同二十二年	計
東京	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
静岡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
兵庫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鳥取	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山口	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

獎勵冷蔵船最大最小收容量

年	最大收容量	最小收容量
大正十二年	三五〇噸	一七〇噸
同十三年	三五〇噸	一七〇噸
同十四年	三五〇噸	一七〇噸
同十五年	三五〇噸	一七〇噸
同十六年	三五〇噸	一七〇噸
同十七年	三五〇噸	一七〇噸
同十八年	三五〇噸	一七〇噸
同十九年	三五〇噸	一七〇噸
同二十年	三五〇噸	一七〇噸
同二十一年	三五〇噸	一七〇噸
同二十二年	三五〇噸	一七〇噸

(一) 氷藏運搬船

明治十八年頃から帆船を以て朝鮮の鮮魚を下關に運搬する方法が實行されたが、逐年發達して同三十四年には汽船を以て運搬するに至つた。この年恰も山陽鐵道が開通

(二) 冷蔵貨車

鮮魚運搬の目的を以て鐵道院に於て冷蔵貨車を新造したのは、明治四十一年で當初の目的は貨車自身を氷を以て冷却する豫定であつたが、實際に於ては其效果少なかつたので、其後の使用は單に魚箱中に入れてある碎氷の融解を少なくする爲めに、防熱工事を成せる防熱貨車たるに止まり、其の数は漸次増加して大正十五年末現在に於ては、鐵道省の所有する冷蔵貨車は九百九十六輛に上り大正十四年度中に於て同貨車に依る魚類の運搬量は六十四萬餘噸に達し大正十二年に比較すれば約五倍に上れり。

(三) 冷蔵庫業

大正十年葛原猪平氏によつて初めて米國から空氣式冷凍法が輸入せられ、鮮魚冷凍をするに及んで長期保存に耐へ得るに至ると共に大正十二年農商務省水産局の水産冷蔵獎勵の結果水産冷蔵業は全國各地に勃興し來り、大正十二年より十五年までに、農林省に獎勵金交付を依頼したるもの百十九庫中、交付許可を得たるもの六十九庫、その冷室容積百八十九萬五千二百二十四立方尺、冷凍室容積十九萬七千八百七十八立方尺に及んだ。而して、冷凍法も空氣鹹水兩式尙ほ行はれるやうになつたが、我國に於ては國民一般魚食が盛んで、古來から魚味に對し頗る敏感なるのみならず、料理法として之れを生食する習慣があるから單に歐米の鮮魚冷凍法で満足すべきでなく、今後益々研究

冷蔵庫獎勵金交付數及容積

(自大正十二年四月至昭和二年三月)

地方別	庫數	冷蔵室容積	冷凍室容積
北海道	四	一、四〇九	五、八七〇
本州	一、六五〇	一、六五〇	一、六五〇
九州	四	一、六五〇	一、六五〇
四國	五	一、六五〇	一、六五〇
計	一、九〇九	一、九〇九	一、九〇九

冷蔵庫獎勵金交付許可府縣別表

年度別	大正十二年	同十三年	同十四年	同十五年	同十六年	同十七年	同十八年	同十九年	同二十年	同二十一年	同二十二年	計
府縣別	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北海道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
青森	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岩手	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宮城	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
栃馬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
群馬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
千葉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東京	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神奈川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
富山	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

獎勵庫最大最小收容量

年	最大收容量	最小收容量
大正十二年	六〇〇噸	三〇〇噸
同十三年	五五〇噸	二五〇噸
同十四年	八〇〇噸	四〇〇噸
同十五年	一、四〇〇噸	七〇〇噸
同十六年	—	—
同十七年	—	—
同十八年	—	—
同十九年	—	—
同二十年	—	—
同二十一年	—	—
同二十二年	—	—

獎勵貯氷庫最大最小收容量

年	最大收容量	最小收容量
大正十二年	七〇〇噸	三〇〇噸
同十三年	九〇〇噸	四〇〇噸
同十四年	八〇〇噸	三〇〇噸
同十五年	四〇〇噸	一〇〇噸
同十六年	—	—
同十七年	—	—
同十八年	—	—
同十九年	—	—
同二十年	—	—
同二十一年	—	—
同二十二年	—	—

(四) 貯氷庫

貯氷庫は製氷業の發達に従ひ、各地に發達し、鮮魚氷藏の途が開けてから漁業用貯氷庫は沿岸各地に其の建設を見たのである。大正十二年農商務省水産局に於て漁村にその獎勵を開始したが獎勵金を交付せるものを舉げると次の通りである。

漁業組合貯氷庫許可數

年	貯氷庫許可數	漁業組合許可數
大正十二年	九	三
同十三年	三	八
同十四年	六	七
同十五年	三	八
同十六年	—	—
同十七年	—	—
同十八年	—	—
同十九年	—	—
同二十年	—	—
同二十一年	—	—
同二十二年	—	—

漁業組合貯氷庫許可府縣別表

Table showing the number of permitted fishing cooperative ice storage warehouses by prefecture from 1914 to 1924. Columns include prefecture names (e.g., 山形, 宮城, 千葉) and years (大正, 昭和).

貯氷庫獎勵金交付許可府縣別表

Table showing the number of permitted ice storage warehouse subsidy payments by prefecture from 1914 to 1924. Columns include prefecture names and years.

(六)製氷業

現今氷が人類の生活上直接に貢献して居る事は實に多大にして、直接食料とし又は衛生方面に使用せらるゝものは別とし、腐敗し易き食品の貯蔵に是を利用する事は年を逐ふて盛んになつて来たのである。

我國に於ける機械製氷の發達は極めて最近の事に屬するも、天然氷の貯蔵利用に關しては記録に依れば今より約千六百年前、仁德帝の御代に氷室に貯へたる氷を毎年四月より九月に至る迄朝廷に献上したるが如き、近くは慶應二年横濱の中川嘉兵衛氏が富士山上より天然氷を採取し市場に出し、又明治三年には北海道より函館氷を搬出し一般の需要に供して居つた。越えて明治十六年獨逸商館カールローテは東京築地と大阪川口とに亞硫酸式五噸製氷を据付け製氷業を開始した。これ我國に機械製氷を見るに至つた始めである。

(イ)天然氷

天然氷は機械製氷と異り自然を利用する關係上其の製法も比較的簡單なるを以て、前記の如く夙に製造貯蔵したる事跡あり、殊に明治年代に至り長足の發達をなし、就中北海道函館五稜郭の外濠より産したる氷は、水質純良清冽加ふるに該地は運搬至便なる港灣を有し各港に輸送する便ありしを

以て横濱、東京等に搬出し一般の需要に供し其後漸次隆盛を加へ逆に支那の天津及米國ボストンより輸入したる外國製氷を驅逐し、函館氷の聲價を斯界に博したのである。現在に於ては機械製氷の生産多きため、天然氷減少しつゝはあれど、今尙前記北海道の外東京附近及輕井澤より多數に産出せられつゝある。

(ロ)機械製氷

現今我國に於ける機械製氷の最も盛んなるは需要の關係上東京市を中心とする關東地方及大阪市を中心とする近畿に次ぎ、其他各地共大小の差こそあれ製氷工場を有せざる所なきが如き状況を見るに至つた。然しながら我國の製氷業が斯く著しく發達をなしたるは最近五、六年間に於て最近の調査に依れば製氷會社数は二百八十餘社、其の工場四百三十餘を算し、此の一日の製氷能力は一萬噸に近く、是に投下せられたる公稱資本金の總額は一億一千五百餘萬圓にして内現在拂込済の金額は六千六百三十餘萬圓に上るのである。

製氷生産額

Table showing the production amount of ice by year from 1914 to 1924. Columns include year, quantity, and price.

製氷工場數及從業者數

Table showing the number of ice-making plants and employees by year from 1914 to 1924. Columns include year, number of plants, and employee counts.

製鹽

本邦の製鹽は、年々の豊凶に基くことは暫らく措き、之を概観すれば、内地製鹽は殆んど發達の頂點に達し、寧ろ稍々減産の傾あるに反し、殖民地の製鹽は、著しく増産を示しつゝあるは、固より現行專賣制度に左右せらるゝ所多かるべきも、大體の趨勢を窺ふに足るものがある。今、最近に於ける内地其他の製鹽の概況を示せば、左の如くである。

Table showing the production of salt by region (e.g., 内地, 朝鮮, 臺灣, 關東州) from 1914 to 1924. Columns include region, year, and production amount.

製氷冷藏裝置一式

事業目論見・設計監督・工事請負

合資
會社

中央冷凍工業所

東京丸ノ内報知ビルヂング
電話丸ノ内(23)八四九番
東京工場、電話世田ヶ谷五五五番

第十四編 樺太、朝鮮、臺灣及關東州
露領漁業

第十四編 樺太、朝鮮、臺灣及關東州

「附、露領漁業」

樺太

概説

樺太の水産行政は、樺太廳農林部水産課を中心として、各支廳に相當技術官を配置し、其の指導監督に當らしめて居る。樺太廳水産試験場は、樂磨に在りて調査研究に兼ねて指導獎勵を行ふ。

樺太に於ける水産の法制は、内地法の延長に屬し、勅令を以て漁業法を同地に施行すると共に、漁業法施行規則、漁業登録令、漁業取締規則、漁業組合令、水産組合規則等を夫々發布したのである。

水産團體としては、漁業組合及水産組合の二種があり、漁業組合は現在三十一、組合員三千五百餘名を有す。

水産組合としては、現在の樺太定置漁業水産組合の一あるのみ。水産會法も同島に施行せられ、目下支廳を地區とする郡市水産會及全島一圓を地區とする樺太水産會創立中である。

漁業の概況

樺太に於ける鯉鱒鮭の漁業は、遠く松前氏の蝦夷に封ぜられたる時代より既に邦人に依りて行はれ來り、明治八年千島、樺太交換條約の結果露領に屬したる後も漁業は依然として邦人に依り經營せられて居つたが、明治三十八年再び我が領土となつては水産行政は最も重要視せられ、殊に鯉鱒及鮭に付ては其の漁利を永遠に保持し漁業の建實なる發達を期せむが爲め建網制度を採用し邦人の經營したる漁場は從前の經營者に免許し然らざるものは競争入札に依り漁業者を定め其の他の漁業に付ては、鯉、鱒、鮭の蕃殖保護に妨なき範圍内に於て一般に之を許可したのである。

大正四年に至り漁業法規の一部を改正して樺太定住の漁業者を以て漁業組合を組織せしめ之に對し鯉、鱒及鮭の専用漁業を免許し其の組合員たる者には一般漁業に従事するの傍ら夫等の漁利に均霑せしめ以て小

漁業者の經濟の一端を補はしむるやうになつた。大正十年に至り専用漁業の數を増加し、更に同十一年漁業法規を改正し漁業免許の入札制度を廢し其の他漁具漁法に關する規定をも改正し今日に至つたのである。

本島の漁業は、鯉を主とし其の年産額は一千萬圓以上に達し鱒、鮭、鱒、蟹及昆布等之に次いで重要な位置を占めて居るのである。

水産増殖の概況

本島に於ける養殖の主なるものは河川養殖に屬する鮭人工孵化にして孵化場は現在幌内川及多蘭泊川に於ける廳管孵化場二、内淵川及阿幸川に於ける民營孵化場二箇所あり。孵化装置は孰れも簡易式を採用し、大正十四年には八百五十萬粒を採卵孵化放流せり。最近諸般の事業勃興するに伴ひ、天然蕃殖に障害を與へるもの尠からざるを以て年々廳管又は民營の孵化場を増設し之が蕃殖を圖るに至つた。其他湖沼、池中及淺海養殖に屬するものには遠淵湖に於ける寒天原藻たる伊谷草及牡蠣の養殖、池中に於ける鯉、鮒類の養殖並漁業組合の施設に屬する昆布蕃殖保護の爲めの投石、雜藻芟

同抄網漁業、咸北、咸南兩道に於ける明太魚刺網漁業、同延繩漁業、咸南慶南兩道に於ける鮮防籠漁業、同魚張漁業、咸南、江原及慶北各道に於ける鯨防籠漁業、同刺網漁業、慶南、全南兩道並西海岸に於ける石首魚中船漁業、及太刀魚一本釣漁業等であつて、其の他沿岸各地に於ける採獲業、慶南地方に於ける蛸釣及鯖網船網漁業、咸南

地方に於ける鱒網漁業、平南、平北兩道に於ける蝦中船漁業、全南地方に於ける蝦弓船漁業、江原、慶南、咸南、及咸北各道に於ける鮭刺網漁業等稍見るべきものがある。然るに、明治十五、六年以來、内地人の通漁するもの漸次増加し同四十二、三年頃日韓併合前後より内地人各種の漁業急激に

發展し、就中巾着網、縛網、大敷網、角網、枒網等の漁業が盛況を來すや鮮人亦之に刺戟せられて自然發達の機運に向ひ、朝鮮在來の漁業も稍其の面目を一新するに至り、殊に、鹽地曳網漁業、延繩漁業等の如きは内地人の資本を仰ぎて經營し、漁獲物の處理方法等内地人と全然同様に操業するに至つたのである。

漁業統計

(昭和元年)

Table with columns for year (大正五年 to 昭和十二年), total catch (總數), and value (價額). It is divided into '常' (regular) and '住' (resident) categories, with sub-categories for '動力を有せざるもの' (no power) and '動力を有するもの' (with power).

Table with columns for year (同十三年 to 昭和元年), total catch (總數), and value (價額). It is divided into '出' (output) and '住' (resident) categories, with sub-categories for '動力を有せざるもの' (no power) and '動力を有するもの' (with power).

Table with columns for year (大正五年 to 昭和元年), total catch (總數), and value (價額). It is divided into '漁' (fishing) and '船' (ship) categories, with sub-categories for '動力を有せざるもの' (no power) and '動力を有するもの' (with power).

水産増殖の概況

朝鮮に於ける増殖業の大宗は、海苔増殖にして其他牡蠣、鯉、灰貝、鱒、鯉、金魚、

鮓、鰻、鱒増殖等もあるも、之等は創業日淺く其の收獲高の如き見るに足るもの尠なし。又近年和布、海羅等を投石又は磯掃除を以て増殖を試むるものもあるも未だ普及す

るに至らないのである。今昭和元年の統計の示す所に依れば、増殖總水面積約千八百九十五萬坪、其の收獲高約百五十萬貫價額二百五十一萬圓にし

て、新政以來各種産業の進歩發展顯著なるに比し甚だ不振の現況に在るは、主として斯業の技術の周知せられざると、半島の諸

情態の未だ闡明せられざるもの多きに歸因するであらう。朝鮮に於ては未だ利用適地の擴大なる上に斯業の將來の極めて有利多

望なるものがあるから適當の施設を爲し民間の企業を促進するに於ては増殖業の面目を一新するに至るべきか。

養殖面積及生産高

年次	養殖個所	養殖面積	生産量	生産高
大正一〇	三一	三〇、九六、〇三六	一、五〇、六九二	七、七、四四元
大正一一	一、四九七	一七、九一、六六七	一、二五、三五五	一、七〇、二四五
昭和元	三、三六〇	八、九三〇、一七三	一、五五、二〇八	二、五七、四七四

水産製造の概況

朝鮮在來の水産製造は、素乾、鹽乾及鹽藏等簡單なるもので製品の種類も明大魚、鱈、鰻、章魚、鱈、玉筋魚、鮑、和布及海苔の素乾品、石首魚、鮫の鹽乾品、石首魚、太刀魚、鰺、鱈、鮫、及明太魚卵の鹽藏品等主として鮮内向のもの多く、品質も粗悪を免れざりしも、内地漁民の移住するものが増加すると共に、製品の種類及其の産額を増加し且つ品質も改良せられたのである。即ち煮乾鰻、鱈鱈、鰻、乾蝦、明鮑、海參、開鱈、鹽鯖、淡菜、乾牡蠣、貝

水産物製造高

(昭和元年)

種目	數量	價額
食用品	八、三九、〇七七	三、〇九、九四四
肥料	八、〇七、七六六	三、七三、六五五
魚油	四、〇八、三五	一、六〇、二四
工業藥品	一、七、七、五元	四、五〇、二天
合計	一、七、七、五元	四、五〇、二天

臺灣

概説

臺灣に於ける水産業は、我が國の領有に歸した當時に於ても、殆んど重要現せられざりしも、近年、之が開發に留意するに至り、總督府殖産局農務課に、專任の技師以下の職員を置き、水産行政を總管し臺北、高雄の兩州には技師以下の職員其他の州廳等には夫々相當の技術官を配置して、監督の獎勵に當らしめつゝあり、臺灣には未だ

水産試験場の設けなきも、漁撈指導船、養殖製造の試験設備を爲し、調査指導に努めつゝあるは勿論である。

臺灣には、唯一の水産團體として臺灣水産協會があるのみ。大正十五年律令を以て臺灣水産會令を公布し、略々内地に於ける系統的水産會に則り、州水産會及臺灣水産會の二種とし、州水産會は略々成立を告げ、目下臺灣水産會創立中である。

漁業の概況

本島人と内地人との間には經營する漁業の種類を異にして居る。本島人の經營する重なる漁業は、臺北州下にては鯉待網を初めとして、鰻鱈焚入敷網、地曳網、鰻流網、鮪刺網、石滬、赤鯨釣等であつて、専ら支那型漁船に依つて行はれて居るも、基隆港には發動機船及戎克船を用ひて赤鯨延繩漁業を爲すものがある。臺中臺南の二州下の西海岸一帯には、地曳網、鰻建網、立干網、石籠、搖籠、鮪刺網、鰻卷網、鰻空釣等が行はれ之には重に竹筏を用ひて居る。高雄より大板埕(南灣)に至る南海岸には、搖籠地曳網、鰻流網、鰻卷網、鰻、鮪の延繩及夜光貝漁業等が行はれ漁船は重に竹筏を用

ゆるも、高雄東港にては鰻鮪延繩漁業に内地型漁船を使用するものがある。數年前山口縣より移住して來た漁民が之を傳へたものであると云ふ。臺東及花蓮港廳下にては鯉待網、鉗突及夜光貝漁業の外近年鯉釣漁業を始めたものがあるが未だ其の成績の見べきものがない。尙澎湖島には石滬、搖籠、鮪建網等が行はれ鰻延繩は澎湖廳に於て其の漁法を傳習せしめたる結果近來廣く行はるゝ様になつた。

要するに本島人の漁業は未だ格段の變化を見ないけれども近年當局の獎勵指導と内地より渡臺する漁民との接觸に依りて其の刺激を受けて覺醒しつゝあるを觀るのである。

内地人の經營する漁業は、赤鯨釣漁業を初めとして鯉釣、鮪、鰻及旗魚の延繩漁業、鰻の延繩及一本釣漁業、珊瑚漁業、捕鯨業、「トロール」漁業等が重なるもので、當局の指導獎勵の結果將來益發達の趨勢にあるのである。

本島の漁業は、最近數年間に長足の進歩を爲し、大正十三年に於ける漁獲高は、九百十九萬三十六圓に達し、之を十年前の大正三年の漁獲高に比較すると、五倍強に當る。而して其の増加の率を重要漁獲物に就

水産製造の概況

臺灣は氣温高く濕氣多きが爲め原料を腐敗せしめ易きが故に、水産製造業は至つて發達せず。唯近年鯉漁業の發達と共に鰻節製造業勃興し、今年産額二百餘萬圓を越ゆるやうになつたが、其他は概ね本島式製品のみで魚脂(雜魚の煮干品)熱魚、鹽干魚、鱈鱈、鰻子等を數ふるに過ぎないのである。

けれども、製造總價額三百四十萬餘圓に達し、臺北の二百七十萬餘圓を首位とし高雄の三十萬餘圓を次位とす。而して對岸には世界有数の海産物市場たる支那大陸あり、更に南方には南洋なる無盡の需要地あり、將來本島の水産製造業は大いに發達の餘地があるのである。

年次	動力を有せざるもの			動力を有するもの			乗組員	漁獲高
	總數	五噸以上二十噸未満	二十噸以上	總數	二十噸以上	二十噸未満		
同 九年	三	三	三	二	二	二	三五三	六、八五三
同 一〇年	三	三	三	二	二	二	三五三	六、八五三
同 一一年	三	三	三	二	二	二	三五三	六、八五三
同 一二年	三	三	三	二	二	二	三五三	六、八五三
同 一三年	三	三	三	二	二	二	三五三	六、八五三
同 一四年	三	三	三	二	二	二	三五三	六、八五三
昭和一元年	三	三	三	二	二	二	三五三	六、八五三
大正 五年	三	三	三	二	二	二	三五三	六、八五三
同 六年	三	三	三	二	二	二	三五三	六、八五三
同 七年	三	三	三	二	二	二	三五三	六、八五三
同 八年	三	三	三	二	二	二	三五三	六、八五三
同 九年	三	三	三	二	二	二	三五三	六、八五三
同 一〇年	三	三	三	二	二	二	三五三	六、八五三
同 一一年	三	三	三	二	二	二	三五三	六、八五三

露領漁業

本邦人經營の

本邦人の露領出漁は、露領沿海州及勘察加兩州約七千裡に亘り、其の年産額五千萬圓と稱せられ、本邦北洋漁業の大宗である。今昭和元年に於ける概況を左に摘録せん。

(一)經營漁區 本年に於るけ經營漁區は二五七箇所で、前年に比し十箇所を増加した。
 (二)出漁船數 出漁船數は、汽船に在りて三三五隻、帆船に於て六七隻で前年に比し前者は一一八隻を増加し、後者は二三隻を減じて居る。
 (三)從業者數 乗組員は五四一人、漁夫は二〇、一二四人を算し前年に比すれば、

前者は二二七人後者は二五五人を何れも減少した。
 (四)漁獲高 本年に於ける漁獲高は六三〇、五六一石で、前年に比すれば、三七七、九七〇石を増加した。
 (五)罐詰製造高 罐詰製造高は九七五、〇六三函を示し、前年に對して、三四四、三〇二函を増加した。

年次	總數	汽船	帆船	乗組員	漁夫	總數	汽船	帆船	乗組員	漁夫
同 一二年	三〇六	一四	二三	三	三	二	二	二	二	二
同 一三年	三〇三	一五	二〇	三	三	二	二	二	二	二
同 一四年	三三六	二〇	二四	三	三	二	二	二	二	二
昭和一元年	二四一	一六	二五	三	三	二	二	二	二	二

年次又は監視區	經流區		出漁船數		乗組員	漁夫	總數	獲高		
	隻數	噸數	汽船	帆船				(鮭)	(鱒)	(紅鮫、鱒の助、搾鮫)
大正 五年	三〇一	一九	四	四	九、九元	四〇、一五	一、五	七、九	三、五	五、九
同 六年	二二	一六	九	三	二、四八	四〇、九一	九、三	三、〇	三、三	五、八
同 七年	三五	一七	六	三	三、七	四三、四七	一三、三	三、三	三、三	五、九
同 八年	二四	一四	七	三	三、五	四〇、一八	一七、一	三、六	三、三	五、〇



船用三百馬力イデガゼー機

ディーゼル機關
無注水重油發動機

自五十馬力
至四十馬力
自十五馬力
至六馬力

漁船用ディーゼル機關
ノ過半數ハ弊社ニ於テ
供給セリ

株式會社 新瀉鐵工所

本社 東京市丸ノ内三菱二十一號館
出張所 大阪西區江戶堀北通一ノ二十一
朝鮮京城府旭町一ノ二十一

昭和三年七月十五日印刷
昭和三年七月二十日發行

定價金貳圓(送料共)

帝國水産會編纂

發行者 小 林 基
東京府下大久保町西大久保一三四

印刷人 小 張 才 三 郎
東京市京橋區南鍛冶町九番地

印刷所 小 張 印 刷 所
東京市京橋區南鍛冶町九番地

東京市麴町區内山下町一ノ一

帝國水産會

電話銀座五〇〇一
振替口座東京六二四一四番

144
712

終